

JICA 海外協力隊 赴任前留意事項

チュニジア共和国



※本資料に記載の情報は、作成日現在のものであり、その後状況が変化している場合があります。記載内容については正確を期していますが、万が一誤りがあった場合には JICA は責任を負いかねますのでご了承ください。

※本資料は JICA 海外協力隊を対象としたものであり、その他の方には該当しない情報も含まれている可能性があります。

目次

1. 赴任時の携行荷物について
2. 別送荷物について
 - (1) 郵送等の利用について
 - (2) 通関情報について
3. 通信状況について
 - (1) パソコンの普及状況
 - (2) スマートフォンの普及状況
4. 現金の持ち込み等について
 - (1) 現金持込にかかる注意
 - (2) 両替状況
 - (3) 赴任時に用意することが望ましい金額について
5. 治安状況について（JICAの安全対策については、隊員ハンドブックを参照）
 - (1) 近年の主な安全面のリスク
 - (2) 特に留意すべき事項
6. 交通事情について
7. 医療事情について
8. 任国での運転について
9. お問い合わせ
10. その他

1. 赴任時の携行荷物について

【赴任時に必ず持参するもの】

※ JICA 海外協力隊ハンドブックの「3-5 出発時の注意事項」を必ず確認の上、ハンドブックに記載されている「手荷物として持参するもの」に加えて、以下を持参ください。

- 外貨現金（空港にて外貨申告をするため）

※「4. 現金の持ち込み等について」参照

チュニジアの空港到着時に、税関検査で荷物を開けられることがあります。携行する荷物については、通常無税で通関することができます。但し、新品の電化製品や大量の未使用の衣類等は商品とみなされ、課税の対象（税金・手数料は隊員負担）となる場合がありますので、箱やビニールから出して使用済みであることが分かる状態にしてください。

基本的に薬品は郵送できないため、常時服用している薬品があれば、赴任時の荷物として持参するようにしてください。

預け荷物は紛失や到着が遅れる場合がありますので、貴重品、現金、電子機器、1日分の着替え等は、機内持込の手荷物に入れてください。

電化製品を含め、生活に必要なものは、品質を問わなければ現地で購入することができます。チュニジアの電源プラグは C タイプまたは E(SE)タイプで、電圧は 220V です。

2. 別送荷物について

(1) 郵送等の利用について

郵便小包・EMS（国際スピード郵便）

- 通常 EMS は 5~7 日、航空便は 10~15 日、船便は 3 カ月程度で届きます。
- 大切な荷物は EMS（現地呼称は Rapide Poste）を利用されることをお勧めします。基本的に宛先住所まで届けてくれますが、内容によっては指定の郵便局まで引取りに行く必要があります。近年、EMS のチュニジアにおけるサービスの質が低下しています。EMS の場合、追跡番号を入力することで、インターネット上で小包の所在を確認できます。【国際郵便物個別番号検索】

<https://trackings.post.japanpost.jp/services/srv/search/>

- 原則として開封検査が行われますので内容品には注意してください。
- 包装は壊れにくいものであれば特に制限はありませんが、開封検査が可能なものとしてください。送付状に価格を記入する際、紛失した場合に備え高額な価格を記入する事例が散見されますが、この申告価格を基に課税額が計算され対象品によっては申告額の 50%相当の金額が関税として課せられることもありますので、ご留意ください。
- 郵便小包が到着したら通知が受取人宛てに届きます。必ず本人が通知書と身分証明書を持って郵便局に引取りに行く必要があります。到着連絡がなかなか来ず返送されるケースもあるため、到着時期には適宜郵便局に行き確認することをお勧めします（郵便局での保管期間は 2 週間程度）。
- 郵便小包は引き取り時に税金・手数料・保管料等が発生し、隊員負担です。

超過預け荷物 (Excess Baggage)

- 別送荷物ではありませんが、搭乗する航空便への超過預け荷物として持参する方法もありますので、航空会社か担当旅行会社に料金を確認して、別送する場合との比較検討を行うことをお勧めします。

アナカン／別送品 (Unaccompanied Baggage)

- 受領までの手続きが煩雑であり、高額な税金や手数料・保管料、時間も要するため、アナカンの利用は避けるようにお願いします。

その他の留意事項

- ドローンの持ち込みには事前に内務省の許可が必要であり、無許可の場合は没収や処罰を受ける可能性があります。さらに、使用には複数の省庁の許可が必要で手続きのハードルも高いため、ドローンの持参は控えてください。
- 赴任前後、住所が確定していない期間は、以下の宛先のとおり事務所を送付先住所とすることを認めますが、宛先は必ず本人宛としてください。なお、チュニジアの郵便局は厳格な本人確認を行っており、事務所が代理で受領することはできません。首都滞在期間中にご自身で確実に荷物を受け取れるよう手配してください。難しい場合は、調整員に事前にご相談ください。なお、右事情により配属後は任地で確実に受け取り可能な住所を確認したのちに送付するようお願いいたします。
- JICA 事務所は個人荷物の国内運搬等の便宜供与は行っていません。隊員本人が公共交通機関等を利用して運搬する場合を想定し、運びやすい梱包にすることをお勧めします。

【宛先】

- JICA チュニジア事務所宛とする場合、「JICA チュニジア事務所付 JICA 海外協力隊員本人宛」としてください。送り先住所は仏文または英文で記してください。

郵便物の送付先（記入例）：

(受取人名) Mr. KOKUSAI Taro (※名前) Bureau de la JICA Tunisie (※事務所名) Rue de la Feuille d' Erable, Immeuble « Le Palmier du Lac », 5ème étage, 1053, Les Berges du Lac 2, Tunis, Tunisie (郵便物宛先 : B. P. 118, Tunis Cedex Tunisie)

- (2) 通関情報について
上記のとおり。

3. 通信状況について

(1) パソコンの普及状況

現地で購入可能な PC の機種・価格

- 日本で購入したノート型パソコンは、通常 100-240V 対応であり、C タイプまたは E (SE) タイプの変換アダプターがあればチュニジア国内でも使用可能です。生活や

活動、報告書等各種書類の作成に必要なため、Microsoft Office が使える個人用パソコンを持参してください。

- 現地での PC の購入はデスクトップ型・ノート型ともに HP、DELL 等海外製品であれば可能です。OS は Windows11 が一般的に流通しています。当地で購入した PC でも日本語入力が可能ですが、キーボードは、フランス式で日本のキーボードとは文字配列等が異なります。PC 関連機器の価格は日本より割高です。

インターネット環境

- インターネット環境については、チュニジアには民間のインターネットサービスプロバイダ (Internet Service Provider) が複数あります。
- 回線の種類としては、携帯電話網を利用した 5G が主流ですが、都市部の一部では光回線も利用可能です。
- 契約にはいくつかのプランがあり、契約期間の縛りがある場合もありますので、契約前に内容や条件を必ず確認してください。
- 代表的なプロバイダ (詳しいサービス情報等は下記各社の HP を参照下さい。)
 - ✓ Ooredoo <https://www.ooredoo.tn/>
 - ✓ Orange <https://www.orange.tn/>
 - ✓ Tunisie Telecom <https://www.tunisietelecom.tn/>

(2) スマートフォンの普及状況

- スマートフォンは一般に広く普及しています。安全管理の観点から着任時に希望者にはスマートフォン(使用済みの Samsung 製エントリーモデル)を貸与しています。

4. 現金の持ち込み等について

(1) 現金持込にかかる注意

- チュニジアの現地通貨はチュニジア・ディナール (通貨コード TND、通貨記号 DT) です。
- 入国時に 10,000DT (約 55 万円) 相当以上の外貨を持ち込む場合、空港の預け荷物引取エリア内にある税関窓口で外貨申告が必要になります。また、銀行口座開設時に外貨現金を入金する際も、この申告書が必要になるため、持ち込み額に関わらず申告してください。申告の際には各自 10DT が必要となりますが、両替前のため一時的に事務所で立て替え、両替後に返金してもらいます。

(2) 両替状況

- ユーロ、米ドル、日本円等の外貨は、空港、市内の銀行や両替所、ホテル等で現地通貨に両替可能です。
- 外貨の国外持ち出しが厳しく制限されているため、一度現地通貨に両替したものは、両替計算書 (レシート) がなければ外貨への再両替はできません。
- 日本や第三国から現地の銀行口座への送金も可能です。また、大きなホテルやレストランやスーパーでは、クレジットカード (VISA、Master) で支払いが可能です。

(3) 赴任時に用意することが望ましい金額について

- 銀行口座の開設手続き等に時間を要することもありますので、**当面の資金 (生活**

費、住居契約時の保証金を含む)として10~15万円程度を準備しておくで安心です。ただし、都市と地方の生活環境や個人の生活スタイルには差があるため、最終的にはご自身で判断してください。

- 着任後に現地銀行口座(外貨換金可能なDinar Convertible口座)を開設します。外貨現金を入金するには、入国時の外貨申告書が必要です。現地通貨ディナールの現金は同口座に入金することはできません。また、口座開設時に100DT相当の外貨が必要です。
- 任地に赴任した際の住居契約時に、家賃の他に、住居の保証金として家賃の1か月分を支払う必要があります。この保証金は隊員の自己負担となりますが、退去時に問題がなければ全額返金(最終月の家賃に充当)されます。

現地生活費の初回分(1~3か月分)については、銀行口座開設後に事務所が振り込みを行い、次回分(次の四半期分)からは本部からの直接送金となります。家賃は事務所が毎月家主に直接支払いますので、隊員が支払手続きを行う必要はありません。

到着時の空港内での両替は、当面の生活費として日本円で3万円程度両替することをお勧めします。銀行口座開設時に100DT相当の外貨が必要なため、手持ちの外貨を全て両替しないよう注意してください。(両替所は事務所近くも含め、市内に多数あります。)

5. 治安状況について (JICAの安全対策については、隊員ハンドブックを参照)

(1) 近年の主な安全面のリスク

- 革命を含む内政混乱、周辺国の治安情勢悪化を受け、イスラム原理主義組織(アンサー、マグレブ・アルカイダ等)による活動が活発化しており、テロ攻撃含む国内の安全リスクが高い状況が続いています。リビアやアルジェリア国境における治安当局とテロリストとの武力衝突のほか、2015年3月のバルドー博物館襲撃、同年6月の観光都市スースにおける自爆テロといった、外国人観光客を狙った事件が発生しました。その後も、首都チュニスにおいてハビブ・ブルギバ通りやチュニス郊外等において治安当局を標的とする自爆テロが発生する等、十分な注意が必要です。
- また、新型コロナのパンデミックやウクライナ情勢、パレスチナ・イスラエル問題の影響による不況により、ひったくりや強盗等の一般犯罪リスクも高くなっています。同時に、政治・経済の停滞を背景に、デモ、ストライキ、暴動が各地で発生し、不安定な社会情勢が続いています。

(2) 特に留意すべき事項

- 人の多く集まる場所では周囲の状況に十分注意し、爆弾テロ等のリスクに配慮してください。また、デモや政治集会の参加者が暴徒化することもあるため、近づかないこと、人の集まる場所を通らざるを得ない場合は、できるだけ滞在時間を短くする、逃げ口を確認しておく等の配慮を心がけてください。逆に人通りの少ないところは、強盗等のリスクがあるため必ず複数人で移動してください。
- 日出前&日没後の外出はできるだけ控えてください。(日出前&日没後の都市間移動は禁止)
- 常にJICA事務所と連絡が取れるよう、スマートフォンを常に充電を保ち消音せずに

携行する等、連絡手段を確保してください。テロ事案等の発生時は、JICA 事務所が早朝・深夜や平日・休日に関わらず可及的速やかに安否確認を行う必要があるため、常にタイムリーな連絡を取れるようにしてください。

- 徒歩移動の際は、後ろから近づいてくる不審者やバイクに十分注意するとともに、車道近くを歩かない、カバンを体の前でしっかり持つ、等の工夫をしてください。また、肩掛けカバン、アクセサリーの携行は危険ですので、徒歩移動の際は可能な限り避けてください。その他、下記ホームページ等からも治安情報を収集するよう努めてください。

外務省／海外安全ホームページ

<https://www.anzen.mofa.go.jp/>

6. 交通事情について

- 一般車、タクシー、乗り合いタクシー等の運転マナーは非常に悪く、JICA関係者の死亡事故含む交通事故が発生しています。特に夜間や早朝等の周りが暗い時間帯の移動は避ける等十分な注意が必要です。
- 事務所では自転車の利用を推奨していませんが、生活や活動上必要な場合は、所定の申請書を提出し、安全対策アドバイザーを含む事務所の承認を得た上で、私費で自転車を購入・利用することが可能です。
- 各都市間は飛行機、鉄道、長距離バス、ルアーージュ（乗り合い長距離タクシー）で結ばれており、これら交通機関で国内移動出来ます。ただし、ルアーージュはスピードの出し過ぎや無理な追い越しによる事故が多発しているため禁止としています。
- ラマダン期間中、イスラム教徒が日の出から日没まで断食を行うため、ドライバーの集中力運転の荒さがみられることがあります。このため、期間中の移動は可能な限り控えてください。

7. 医療事情について

一般的な医療事情と感染症や疾患について

- チュニジアの各都市には比較的設備の整った私立の病院が複数ありますが、衛生管理や薬品不足などの問題も多いのです。
- 赴任前に日本での歯科治療を完治させておくことを強くお勧めします。
- 既往症があり、日常的に内服薬を常用している方は、主治医から英文診断書をもらい、現地医師へ引き継げるようご準備ください。同じ薬がないこともあるため、替わりの薬について医師に相談しておくとういことです。服用中の常備薬などは必ず持参して下さい。
- ミモザやオリーブによる花粉症など日本では稀な原因によるアレルギー症状が出る場合があります。花粉症の方は対策をお願いします。
- 生ガキ等による A 型肝炎がまれに発生します。
- 野良犬や猫が多く狂犬病の発生例も毎年確認されていますので、現地で動物に触つ

たり近づいたりしないようにしてください。

- 隊員がかかりやすい傷病は、下痢、腹痛、発熱などで、細菌・ウイルスに汚染された食べ物から感染する場合があります。食前、トイレ後の手洗いの徹底、口にする食べ物には十分に火を通す、不衛生な場所で調理された食べ物は食べないなどを心掛けてください。
- ダニ、トコジラミやノミなどの虫による肌トラブルも多く発生しています。ダニ除けマットは効果的ですが、チュニジアでは入手できません。
- 医薬品に関して、風邪薬、解熱鎮痛剤、整腸剤、虫刺され軟膏、虫よけスプレーなど常用している薬があれば持参されることを推奨します。漢方薬や湿布薬のようなものはありません。薬品の流通が不安定であることや、軟膏薬、内服薬の選択肢が豊富でないことを念頭に、必要な場合には持参することをお勧めします。

予防接種について

- 腸チフスワクチンは任国では入手が不安定のために必ず赴任前に接種してきてください。
- 現地で対象者の B 型肝炎ワクチン、破傷風ワクチンの接種を実施予定ですが、ワクチンの流通状況によっては接種できないこともあります。
- インフルエンザワクチン接種 も可能です。希望者は各自、薬局でワクチンを購入して医師に接種してもらいます。

出発前のマラリア予防薬内服の推奨と購入について

- チュニジアはマラリアの流行地でないため、出発前の予防薬の内服は推奨しません。
- マラリア予防薬はチュニジアでも購入可能ですが、予防薬の種類は限られています。また、時期やタイミングによっては購入できない場合があります。
- その他、以下、在外公館医務官情報を熟読して下さい。

外務省／世界の医療
事情チュニジア

<https://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/medi/africa/tunisie.html>

8. 任国での運転について

隊員の自動車（レンタカー）の運転、バイク（レンタバイク）の運転・同乗、バイクタクシー（二輪・三輪）の利用を禁止しています。

9. お問い合わせ

任国での活動に関する質問は、以下のチュニジア事務所代表アドレス宛にメールでお問い合わせください。

※長期隊員の方は、お問い合わせは派遣前訓練が開始してから行ってください。

JICA チュニジア事務所代表アドレス：ts_oso_rep@jica.go.jp

10. その他

出迎え

到着時は、JICA 事務所スタッフが預け荷物引取エリア内で待機していますが、入国審査には立ち会えないため、各自で入国目的や滞在先を説明できるよう準備してください。空港内で、事務所スタッフとともに、両替と SIM カード購入を行います。

滞在査証取得

チュニジア入国時に査証は不要ですが、着任後、長期滞在査証取得手続きのため、2~3週間程度、公用旅券を事務所で預かります。その間は、パスポートコピーを携行してください。

気候

チュニジアは四季があり、夏季（6~9月中旬）は日中 35~45℃程度、冬季（11月中旬~3月）は 3~15℃程度となることから、夏服冬服の両方の準備が必要になります。

服装

イスラム教国のため、女性は肌の露出が過度にならない服装を着用してください。これは現地文化への配慮だけでなく、安全管理上の観点からも重要です。衣類の現地調達が可能です。品質にこだわらなければ基本的に何でも揃います。真夏の日中の日差しは大変強いいため、紫外線対策としてサングラスの携行を推奨します。

生活物資購入

首都チュニスには大型スーパーマーケットがあり、欧州系の食料品や衣料品、衛生用品、電化製品等が購入可能です。品質は日本と比べてやや劣るものの、生活に必要なものは概ね揃います。地方の大都市においても品数や種類は限られるものの、同様に必要な物資は入手可能です。

チュニスにはアジア系食材を扱う店が数店舗あります。お米、醤油、味醂、味噌など安定供給は見込めませんが入荷していることもあります。割高のため必要に応じて日本から持参することをお勧めします。日本式包丁は現地での入手は困難です。

電圧はフランスと同様 220 ボルトのため、日本の電化製品を使用するには、電圧変換器の使用やコンセント形状の変更が必要です（コンセント形状 C または E (SE) タイプ）。化粧品、女性用衛生用品は入手可能です。

<主なスーパーマーケット>

CARREFOUR <https://www.carrefour.tn/>

Monoprix <https://www.monoprix.tn/>

GEANT <https://www.geant.tn/>

その他の留意事項

チュニジアでは、停電・断水が地域や季節によって発生することがありますが、長時間、長期間続くことはあまりありません。また、マラリアや風土病の心配もほとんどありません。ただし、西洋化が進んでいる地域でも、イスラム社会の文化が根強く残っており、不慣れな環境下で精神的ストレスが溜まりやすいことがあります。心身の健康を保ち、活動を無理なく行うために、焦らず徐々に現地環境に慣れていくことが大切です。

下記ホームページ等からも情報が入手できますので、ご参照ください。

在チュニジア日本国 大使館領事情報	https://www.tn.emb-japan.go.jp/jp/Viens/aller.html
----------------------	---

以上